

キリ造林地の生産管理手法の検討について (26)

湯沢署・経営課 田原 茂則
○加藤 喜弘
担当区事務所 渡部 啓

はじめに

当署管内の湯沢・雄勝地方は、キリの栽培に適した気候風土に恵まれ、又、キリ材の持つ高い収益性や、キリ材の造成による貯蓄性が着目され、古くから三関・須川地区を中心に栽培が進められてきました。

また、雄勝町院内には、昭和60年に国内で唯一の「秋田桐原木共販市場」が開設され、キリ特産地化の条件が整備されています。更に、今春には加工場が併設される予定であり、一層の充実が図られるものと期待されております。

一方、当署におけるキリ栽培は旧苗畑跡を利用して昭和56～57年に植栽しており、林令10～11年生になったことから生育過程及び現状を把握し、キリ材の特殊な販売形態をふまえた今後の育成手法について検討したので発表します。

1. キリの特性

- (1) 成長が早い
- (2) 寿命は短い
- (3) 立地条件に対する要求度が大きい
- (4) 根は好気性が強く、浅根性である
- (5) 陽樹であり、乾燥しない日当たりの良い所を好む
- (6) 病虫害を受けやすい
- (7) 西日と風に弱い
- (8) ぼう芽性が強い
- (9) 材質は軽くて柔らかい、又、加工し易く狂いが少ない
- (10) 熱伝導が小さく難燃性である

以上のような特性を有している。

2. キリ植栽地の現況

- (1) 植栽地の概況

ア 位置	雄勝町院内 矢込沢国有林73林班ゆ、し小班
イ 方位	北西
ウ 標高	200m
エ 林地傾斜	平坦
オ 土壌型	BD
カ 積雪期間	11月下旬～4月上旬
キ 最高積雪深	2.5m
ク 植栽苗木	分根苗
ケ 生産目標	枝下高 4m

この箇所は山裾に位置しているが、土壌が浅く、下層は転石で保水力にかけているほか、長年スギの育苗地としてきたため、腐植が少なく堅密である。

したがって、キリの育成には困難性の高い土壌条件であり、又、フラン病の罹病率は山地・林地よりも苗畑・畑地が高く、実生苗よりも分根苗が高いといわれており、このような悪条件の中での栽培となっている。

(2) 施業経過及び現況

ア 植栽時

林小班	面積 ha	植栽年度	植栽本数	
			ha当り	総
73ゆ	1.50	56春・秋	625	937
し	0.65	57春	692	450
計	2.15		645	1,387

イ 昭和58年10月調査

林小班	現存本数		健全木	不良木		
	ha当り	総		フラン病	形質不良	計
73ゆ	593	890	99	691	100	791
し	603	392	170	203	19	222
計	596	1,282	269	894	119	1,013
(比率)		(100%)	(21)	(70)	(9)	(79)

* 現存本数は植栽時の92%である。

* 昭和58年11月～12月に、不良木に対し台切りを実施した。

ウ 昭和63年調査 (標準地調査)

林小班	本 数		材 積 m ³		平均胸高 直径 cm	平均樹高 m
	ha当り	総	ha当り	総		
73ゆ	600	900	42	63	14	10.2
し	600	390	30	20	12	9.2
計	600	1,290	39	83		

エ 平成2年及び3年調査の比較 (抽出調査)

調査 木	2年10月 調査		3年10月 調査	
	胸高直径cm	樹高 m	胸高直径cm	樹高 m
A	16	8	18	9
B	17	10	18	10
C	24	10	26	11
D	18	9	20	10
E	15	8	16	9
平均	18	9	20	10

* 林分内には、胸高直径で最高30cmのものもあるが、73林班し小班から無作為に5本を選木した。

単木毎の成長はそれぞれ異なるが、1年で胸高直径は約0.5~2cm肥大する。

オ 保育経過 (73林班ゆ小班)

林 令	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
実行年度	56	57	58	59	60	61	62	63	H1	2	3	4	5
植付け	○												
台切り			○										
芽かき				○	○	○	○						
整 樹			○		○	○	○						
中 耕			○	○									
除 草			○	○	○	○	○	○	○	○	○		
下 刈		○	○										
施 肥		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
被害防除			○	○	○	○	○	○	○	○	○		

(73林班し小班)

林 令	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
実行年度	57	58	59	60	61	62	63	H1	2	3	4	5	6
植付け	○												
台切り		○											
芽かき		○	○	○	○	○							
整樹		○		○	○	○							
中耕			○	○									
除草		○	○	○	○	○	○	○	○	○			
下刈	○	○											
施肥		○	○	○	○	○	○	○	○	○			
被害防除		○	○	○	○	○	○	○	○	○			

3. 雄勝地方における一般的な施業方法

(1) 植栽本数

若令の間伐木は売れない、売れても低価格である。又、植栽本数が多ければ管理費がかさむことから、HA当たり200～220本を植栽し、間伐はしない方針である。

(2) 仕立て方

枝下高は植栽地の土地条件、伐期の長短等により異なるが、材長2.25m以上が長材として有利に取引されることから、枝下高2.5～3.0mが主流である。

(3) 施肥

伐期を長くし、年輪幅の狭い高品質材生産の場合は地味に任せるが、短伐期の場合は、バーク堆肥、又は鶏糞を主体にし、化学肥料は成長を見ながら実施する。

(4) 病虫害等の防除

キリ栽培にとって病虫害の予防が一番大切なことから、コーモリガ等の虫害防除には、チューブ入り殺鼠剤を虫穴に注入し、泥等で塞ぐ。

野兎鼠対策として、ポートボールを高さ2m位まで巻き付け、更にZP

をHA当たり2kg散布する。又、フラン病等の罹病木は、伐倒処理する。

(5) 主伐時期

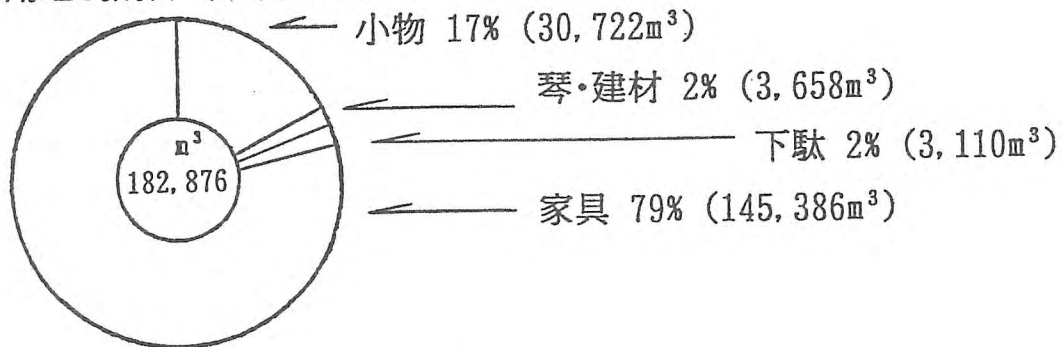
17～20年での伐採が殆どである。

4. キリ材の需給動向

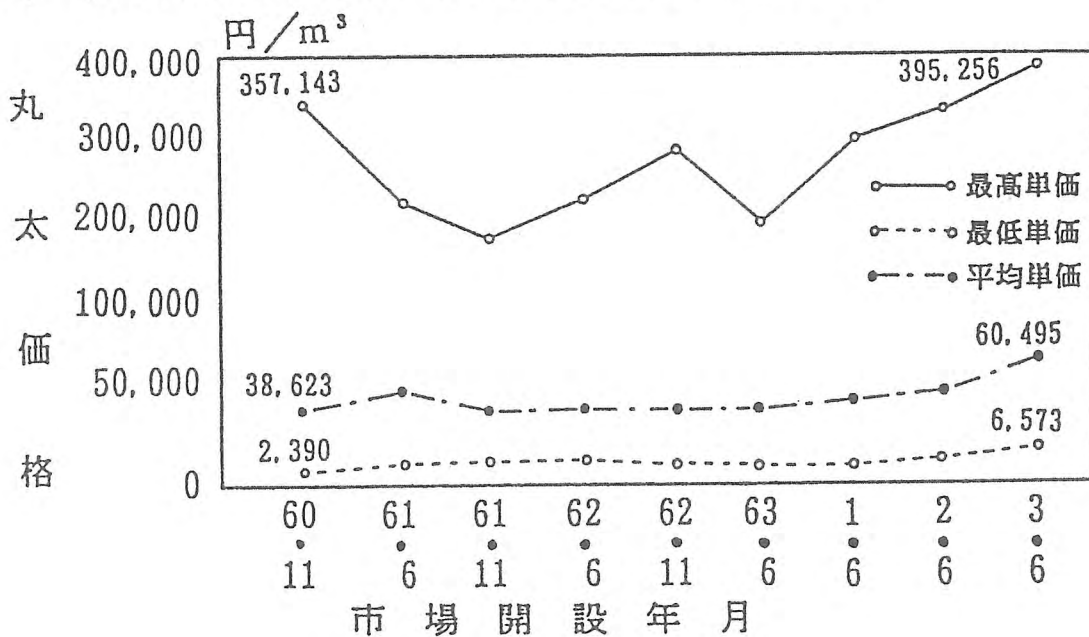
(1) 年度別国内生産量及び輸入量 (単位: 千 m^3)

年度	58	59	60	61	62	63	H1	2
生産量	15	14	14	15	15	14	17	17
輸入量	136	147	137	173	183	192	197	171
計	151	161	151	188	198	206	214	188

(2) 用途別割合 (平成2年)



(3) 秋田桐原木共販市場における年度別販売単価の推移



(4) その他市況等の動向

- ア キリ材価格は、90%以上を占める外材によって左右されている。
- イ 若令間伐材、特に10年生以下のものは敬遠される。
- ウ 通直・無虫孔・年輪幅の狭いもの・太いもの等が好まれる。
- エ 曲がり材は、歩止まりが悪くなるため不評である。
- オ 長さ2.25m以上が長材となり有利である。
- カ 林令25年生以上は良い価格で売れる。
- キ 病虫害のものや、間伐材は売れ残る。
- ク 国産材は外材よりも品質がよいので、人気がある。
- ケ キリの生産者、素材業者共に病虫害防除が最も重要と認識している。

まとめ

流通における「秋田キリ」の有利性は、材質にあるといわれており、これをベースに通直な無虫孔材の生産を目標とした保育管理の徹底を図ることにより、有利販売が可能となります。

- 以上のことを念頭においた今後の保育管理の重点を、次の5点に集約しました。
1. 病虫害防除の徹底を図り、無虫孔材の生産に努める。
 2. 土壌条件の悪い箇所のため施肥は継続していく。この場合、鶏糞をベースにし、化学肥料は成長度合いを観察しながら施肥していく。
 3. HA当たりの成立本数が多いため、隣接木の枝葉が接触してきたので、病虫害予防と健全な生育を維持させるため、間伐を実施する。
 4. 野鼠対策としては、これまでアンレスの塗布及び石灰窒素を散布してきましたが、林道沿いの一部に被害が見られたので、今年度スギの葉による被覆を試みました。来春の効果を見て判断したい。
 5. 主伐期は、これまでの聞き込み等の調査によれば、今後の方向としては30年生以上の高品質材が求められていることから、少なくとも25年生にした方が有利と考えられますが、間伐実施後の成長度合いを継続調査し、又、関係者の御指導を得ながら判断したいと考えています。